

地域生活支援学演習

[演習] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子 只石朋仁

【概要】

地域生活支援学特論で学んだ理解を踏まえ、地域生活者の様々な生活支援場面に対する効果的取り組みの一つとして、多職種連携における実践能力について学ぶ。

【学修目標】

一般目標：地域実践に係る多職種連携の具体的方法やその理論的背景を理解する。
行動目標：自らの研究課題に関連した内容について、地域における多職種連携を実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	本演習における学習目的や具体的な進め方について理解する。	鈴木英樹 長谷川純子 只石朋仁
2～15	地域生活支援における多職種連携	実際の生活課題を取り上げながらその背景要因や具体的対応について他職種の意見を踏まえながら、より良いチーム支援のための自身の役割を理解する。	鈴木英樹 長谷川純子 只石朋仁

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義内での討議への参加状況50%、レポート50%にて判断する。

【教科書】

著：John N. Morrisほか 監訳：池上 直己 インターライ方式 ケアアセスメント 医学書院 2011年

【学修の準備】

毎講義前に、参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（予習80分）
講義終了後に、講義での討議内容について整理復習すること。（復習80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における臨床的課題に対し、医科学・心理学・社会福祉学などの学際的視点を取り入れながら科学的に分析・解決する能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鈴木英樹（専門理学療法士；生活環境支援） 長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）
只石朋仁（理学療法士、専門理学療法士；生活環境支援）

【実務経験を活かした教育内容】

地域実践における実務経験を踏まえ、地域住民が抱える生活課題について積極的に意見交換を行う。